



- 放射性炭素年代測定法 -

生命体の死後、放射壊変により体内のC14(炭素の放射性同位体)が減少する性質を利用して年代を推定する方法。アメリカのウィラード・リビー博士らがその原理を発見、1960年ノーベル化学賞を受賞。
近年、その精度が飛躍的に向上。2004年頃から文化財建造物に活用されはじめ、現在は建築材の有効な年代測定の手法の一つとなっています。

茶室の年代測定用サンプル採取状況



仙台の大條邸にあったころの茶室
(大正8(1919)年/中央:大條道徳)

茶室の造られた年代が判明

大條家の茶室には「伊達政宗が豊臣秀吉から拝領した茶室」といった伝承がありました。しかし、建物の年代を示す文字資料がなく、その真偽は不明でした。そこで町では、1月、「放射性炭素年代測定」を初めて実施。その結果、茶室に使用された木材の年代が「1700年代後半〜1800年代初め頃」と判明し、「江戸時代後期の建物」という理化学的証拠が得られました。秀吉までさかのぼる年代ではありませんでしたが、「天保3年(1832)伊達家から茶室拝領」という大條家の記録の裏付けと、詳細不明だった茶室の年代の解明につながる大きな成果となりました。

仙台藩唯一の貴重な建物

明治維新後、仙台城の城下町にあたる仙台中心部には「仙台城大手門」「藩校養賢堂」「伊達政宗霊廟瑞鳳殿」をはじめとする、仙台藩ゆかりの文化財建造物が数多く存在していました。しかし、昭和20(1945)年の仙台大空襲で仙台市中心部は焼け野原となり、江戸時代から残る多くの文化財が焼失してしまいました。
大條家の茶室は、この空襲前に仙台から移築されたため、運よく戦火を免れることができたのです。現在は、仙台藩上級武士層が所有していた茶室の中で「唯一現存する貴重な茶室」となりました。

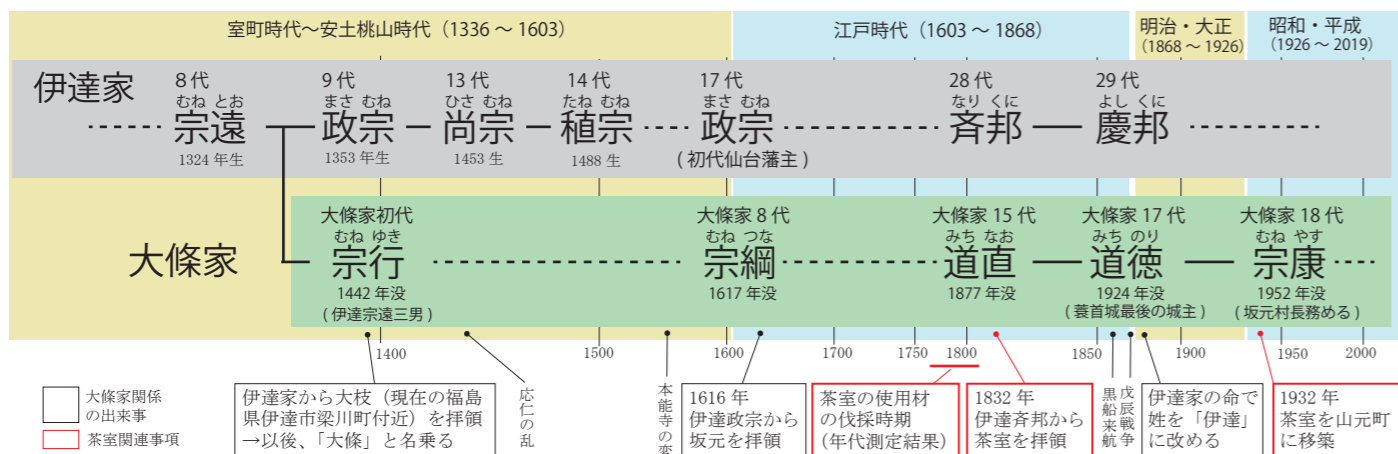
東日本大震災で 大きな被害を受けた「茶室」 修復に向けて動き出しました



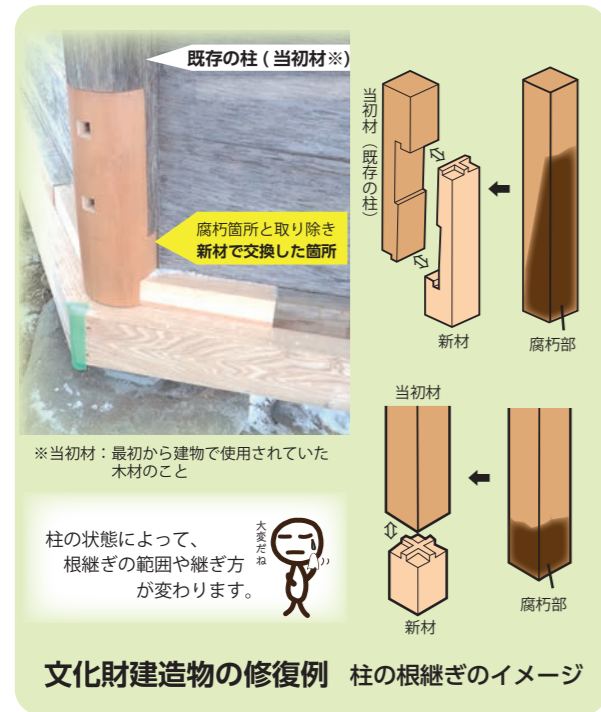
東日本大震災被災後の茶室(撮影日:平成29年6月5日)

「大條家茶室」を守り伝えたい

下郷区と町区は、江戸時代に坂元を治めた「大條家」の城下町でした。
大條家の歴史は室町時代にさかのぼり、伊達家から分かれた家系、伊達家8代宗遠の三男宗行を祖とします。代々伊達家に仕えた重臣であり、元和2(1616)年に伊達家17代伊達政宗から亙理郡坂本(現在の坂元地区一帯)を拝領。以後明治維新までの約250年間この地を治めます。仙台藩家格制度の頂点「二門」の次の「一家」に所属、藩政の最上位「奉行職(他藩の家老)」を歴任した家柄で、幕末戊辰戦争時の仙台藩の降伏・戦後処理も担当しました。
下郷区に現存する町指定文化財「茶室」(平成14年指定)は、江戸時代後期の天保3(1832)年、伊達家28代齊邦から家臣である大條道直に与えられた茶室です。昭和初期まで仙台の大條邸で保管されてきましたが、昭和7(1932)年に大條家の居所・坂本要害(通称・養首城)の一角に移築され、現在に至ります。



大條家に茶室を与えた伊達家28代 伊達 齊邦 肖像画
(画像提供:仙台市博物館)



なぜ高額?文化財の修復方法

文化財建造物の修復は、その過程で文化財の価値が損なわれないような配慮が必要です。
具体的には、

- ① 建物の詳細調査に基づく修理
- ② 既存の部材を最大限利用
- ③ 同じ技法(作り方)での修理
- ④ 可逆性のある(元に戻せる)方法での修理
- ⑤ 将来のため修復箇所・内容の記録作成
- ⑥ 文化財修理の知識・経験を有する技術者の配置

などが求められます。つまり、文化財の修復は一般的な建物の建築や修理に比べ、多くの手間と費用が必要となってしまうのです。

この点が全国各地の文化財建造物修復の大きな課題になっていきます。文化財を適正に修復し、後世に正しく継承していくためには、十分な整備費用を確保する必要があります。

なぜ高額?文化財の修復方法



本物の文化財に触れ 歴史・文化を学ぶ場へ

現在、町では、令和2年度に作成した基本設計を基に、茶室を含む敷地の一帯的な整備に向けて、具体的な修復方法、材料選定などの検討(実施設計)を行っています。

今回の茶室整備では、「仙台藩茶の湯文化を伝える唯一の茶室の保護」だけでなく、「本物の文化財に触れ、仙台藩の歴史・文化を学べる場の提供」も目指しています。修復後は、本格的な茶会や文化事業の実施、地域交流の場、茶道や歴史を学べる教育施設、歴史公園、観光施設など、茶室を積極的に活用した事業展開を想定しています。

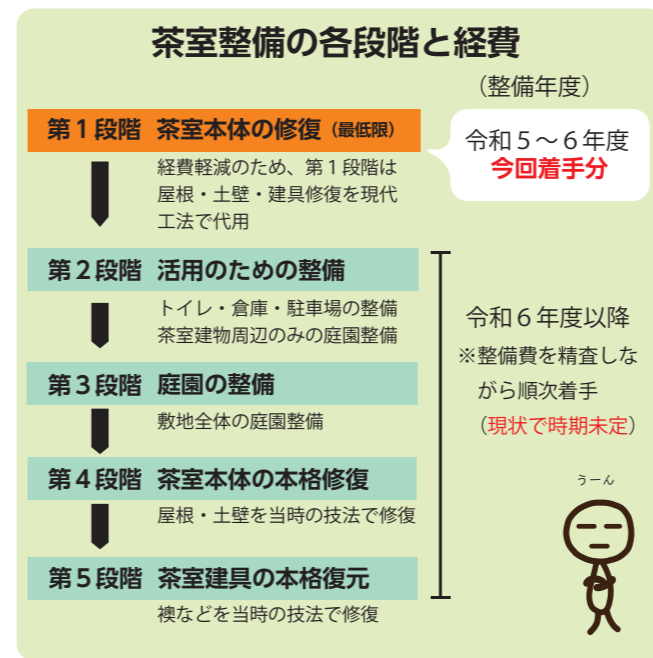
「貴重な文化財」だからこそ、多くの方々に触れていただき、文化財を守り伝えることの大切さを感じ、地域の歴史を語り継いでもらいたいと考えています。

5段階に分けて整備 整備費の確保が大きな課題

茶室を含む敷地一帯の整備は、建物の現状を踏まえ、5段階に分けて進めていきます。

まずは、「第1段階」として、損壊や劣化が激しい茶室建物本体の最低限の修復を目的とする工事を実施。令和5年秋頃に着手、令和6年度の完了を予定しています。第2段階以降の活用のための利便設備や景観上欠かせない庭園の整備は、具体的な整備時期は検討中ですが、令和6年度以降に順次着手していく予定です。

なお、「第1段階」の整備については、近年の度重なる地震被害、物価上昇の影響もあり、7千万円以上の費用がかかる見通しとなっています。今後も物価上昇の可能性がある中、想定を超えた整備費をいかに確保していくかが大きな課題といえます。



整備後のイメージ図 (5段階完了後)



寄付金募集

仙台藩伊達家ゆかりの茶室 修復プロジェクト【第1弾】

「クラウドファンディング型ふるさと納税」始めました

「茶室整備事業」に特定した財源確保のため、町で初めてとなる「クラウドファンディング型ふるさと納税」を開始しました。

仙台藩伊達家ゆかりの唯一の茶室が山元町に現存していることを積極的にアピールし、町の新たな歴史的名所としていきたいと考えています。

町外にお住まいのご親戚やご友人へのPRのご協力をぜひお願いします。

募集期間 9月29日(金)まで

目標金額 1,000万円

今回の第1弾での寄付金は茶室修復の設計・工事に活用します。

ふるさと納税との違いは?

地方自治体への寄付を通じて地域創生に参加できる「ふるさと納税」制度の中で、用途を明確にして寄付金を募集しているものが「クラウドファンディング型ふるさと納税」です。

町民は寄付できるの?

町に住民票登録のある方は、「お礼品を希望しての寄付ができない」制度となっています。ただし、町民の皆さんからの寄付も税額控除の対象となります。

どうやって寄付するの?

プロジェクトの詳細や寄付の申し込みは、「さとふる」ホームページをご覧ください。
<https://www.satofull.jp/projects/top.php>

さとふる クラウドファンディング 山元町 🔍 検索

☎ 生涯学習課 生涯学習班 ☎ 36-8948